

## 5 世界史B

### 指導と評価の年間計画例 その1 第2学年用2単位 (3年継続3単位 計5単位)

目標 【学習指導要領】	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな流れを、各時代、各地域の歴史の重要な事項を中心に学びながら、世界の様々な地域世界の風土や文化、歴史的発展を理解するとともに、その文明の交流や再編・統合と変容の過程、及びを地域世界間の相互関係を把握させる。</li> <li>現代の諸事件・課題等との結びつきを常に意識し、世界の歴史への興味や関心を引き出しつつ、世界の歴史の基本的な内容の理解した上で、現代の課題を多角的に考察できる力を養う。</li> <li>歴史的事象を地球的視野に立って一体化の動きや構造を把握させ、諸国家・諸民族の成立や発展がいかにして起こったのかを理解させる。また、国家や民族などの共存、対立などの今後もおこるであろう様々な課題を考察させる。</li> <li>世界の歴史への興味・関心を引き出せるように、ビデオ教材や図表を幅広く利用し、具体的なイメージをもたせつつ、重要なテーマについてはより深い考察を行って、歴史的思考力の形成を促す。</li> <li>生徒が理解しやすいように、身近なものや日常生活などに関する適切な主題を設定する。</li> <li>知識の定着を図るため、小テストをおよそ5週間に一度の割合で実施する。</li> </ul>

月	単元名	使用教科書項目( 出版世界史B )	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月		世界史Bの授業について(はじめに)	1	・世界史B学習の意味	アンケート実施
5月	世界史への扉	*主題学習 「古代地図を手がかりにした授業」 「食品を題材にした調べ学習」	5	・古代地図の変遷を見ながら、歴史を学ぶことの楽しさや面白さを理解する。 ・調べ学習を通して、歴史への興味・関心を高める。	行動観察 課題発表 自己評価
5月	序章	序章 先史の世界	1	・人類の誕生とその発展と自然との関連を考察する。	プリント確認
6月	第1章	1 古代オリエント世界	3	・現代の生活に影響を与えている、10進法や太陽暦、宗教などをあげて理解を深める。 ・地中海周辺の都市文明の独自性と交流、統合の歴史を学ぶ。 ・後のヨーロッパ社会への影響を考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
6月	オリエントと地中海世界	2 ギリシア世界	4		
6月	アジア・アメリカの古代文明	3 ローマ世界	5		
7月	第2章	1 インドの古典文明	3	・南アジア・東南アジアの多様な自然条件を理解し、そこに登場する民族の特徴を考察する。 ・2ヶ月の間の学習の状況について自己評価する。 ・授業評価を実施する。 ・古代中国の文化が日本にどのような影響を与えているのかを理解する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価 授業評価 小テスト
7月	アジア・アメリカの古代文明	2 東南アジアの諸文明	1		
7月	明	前期中間考査 テスト返却 自己評価・授業評価	1		
7月	明	3 中国の古典文明	3		
8月	第3章	1 北方民族の活動と中国の分裂	2	・遊牧民の生活を知ること、今後の中国の歴史を理解するための一助とする。 ・東アジア世界の確立が日本の国家成立に影響を与えたことを考察する。 ・授業評価を実施する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価 授業評価
9月	東アジア世界の形成と発展	2 東アジア文化圏の形成	2		
9月	東アジア世界の形成と発展	3 東アジア諸地域の自立化 前期期末考査 テスト返却 自己評価・授業評価	3 1 1		
10月	第4章	1 遊牧民とオアシス民の活動	2	・東西世界を結ぶネットワークとしての都市の発展を理解し、それが両地域間の交流を活発にしたことを考察する。 ・モンゴル民族による文化の統合や再編について理解を深め、その過程や困難さを考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
10月	内陸アジア世界の発展	2 トルコ化とイスラーム化の進展	2		
10月	内陸アジア世界の発展	3 モンゴル民族の発展	2		
11月	第5章	1 イスラーム帝国の成立	3	・イスラーム都市を中心として海陸の商業ネットワークが形成され今後の文化の交流などに大きな影響を及ぼしたことを理解する。 ・学習の状況について自己評価する。 ・イスラーム文明の形成過程を学び、それがヨーロッパのルネサンスを促した一因となったことや、中国への影響について着目し、考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価 小テスト
11月	イスラーム世界の形成と発展	2 イスラーム世界の発展	2		
12月	イスラーム世界の形成と発展	後期中間考査 テスト返却 自己評価・プリント確認	1		
12月	イスラーム世界の形成と発展	3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化	1		
1月	第6章	1 西ヨーロッパ世界の成立	5	・ヨーロッパ世界の地域性を学び、宗教・文化の違いや国家の変遷の過程で、現在のようなヨーロッパ世界を形成したことづく。 ・中世を通じて日常生活とキリスト教との関わりを注目させ、イスラーム世界との関連を考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
1月	ヨーロッパ世界の形成と発展	2 東ヨーロッパ世界の成立	2		
2月	ヨーロッパ世界の形成と発展	3 西ヨーロッパ中世世界の変容	5		
2月	ヨーロッパ世界の形成と発展	4 西ヨーロッパの中世文化	1		
3月	第7章	1 陸と海のネットワーク	1	・いままで学習した諸民族の特徴や歴史的影響を復習し、その役割と今後の世界形成への影響を考察する。 ・1年間の学習により何が学べたかについて自己評価する。 ・1年間の授業について評価をする。	年間の反省 授業評価 自己評価
3月	諸地域世界の交流	2 海の道の発展	1		
3月	諸地域世界の交流	2年生のまとめ	1		
3月	諸地域世界の交流	後期期末考査 自己評価・授業評価	1		
			合計時間数	70	

指導と評価の年間計画例 その2 第3学年用3単位 (2年からの継続 計5単位)

目標と到達目標へ向けての具体的な取り組みは、第2学年と同じ。

月	単元名	使用教科書項目( 出版世界史B)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	復習		1	・2年次の復習	
5月	第8章 アジア諸 地域の繁 栄	1 東アジア・東南アジア世界の動向	2	・中華帝国の再現である明の発展と隣接地域との関係を理解する 中で、日本と中国・琉球などにも注目する。 ・西・南・東南アジアの国家の発展と、ヨーロッパ諸国の進出による社会の変容について理解する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 清代の中国と隣接諸地域	2		
		3 トルコ・イラン世界の展開	1		
		4 ムガル帝国の隆盛と衰退	1		
5月	第9章 近代ヨー ロッパの 成立	1 ヨーロッパ世界の拡大	2	・中世の権威や倫理を批判する運動としてルネサンスなどが起こったことや、その中から絶対主義諸国が形成されたことを理解する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 ルネサンス	2		
		3 宗教改革	2		
		4 主権国家体制の形成	3		
6月	第10章 ヨーロッ パ主権国 家体制の 展開	1 重商主義と啓蒙専制主義	2	・重商主義による経済活動と植民地の争奪について理解し、それによりヨーロッパで経済体制の変化が起きたことを考察する。 ・科学革命や国際法、芸術の発展など様々な分野において発達した文化とその社会状況を理解する。 ・学習の状況について自己評価する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価 授業評価
		2 ヨーロッパ諸国の海外進出	2		
		3 17～18世紀のヨーロッパ文化	1		
		前期中間考査 テスト返却 自己評価・授業評価	1		
7月	第11章 欧米にお ける近代 社会の成 長	1 産業革命	2	・技術革新や啓蒙思想の発達を背景に起こった諸革命によって自由主義の風潮が高まったことや、市民社会の形成が起こったことを理解する。また、それらが相互に関連をもっていたことにも気づく。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 アメリカ独立革命	2		
		3 フランス革命とナポレオン	5		
7月	第12章 欧米にお ける近代 国民国家 の発展	1 ウィーン体制	2	・ウィーン体制の下で自由主義・国民主義の運動が高まり国民国家の形成が促されたことを理解する。 ・アメリカ文明の発展が領土の拡張と人口移動によって起こった推移を理解し、その社会にある黒人奴隷制や民族・人種の問題について考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 ヨーロッパの再編	3		
		3 アメリカ合衆国の発展	2		
		4 19世紀欧米の文化	2		
9月	第13章 アジア諸 地域の動 揺	1 オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ	2	・ヨーロッパの進出によって経済だけでなく政治・社会・文化などあらゆる点で影響を受けたことを理解し、ヨーロッパ社会を中心とする分業社会に組み込まれていったことを理解する。 ・ヨーロッパ諸国の進出の各地域への影響を学び、それが民族や宗教にも大きな影を落としたことを考察する。 ・学習の状況について自己評価する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価 授業評価
		2 南アジア・東南アジアの植民地化	3		
		3 東アジアの激動	3		
		前期期末考査 テスト返却 自己評価・授業評価	1		
10月	第14章 帝国主義 とアジア の民族運 動	1 帝国主義と列強の展開	4	・独占資本の形成を背景に原料供給地や資本投下場所を求めてアジアのみならずアフリカ・オセアニアなどに進出したことを理解する。また、国を越えた大量の移民労働者にも目を向ける。 ・日本が近代的諸制度を取り入れることで、列強の一員としてアジアにおける勢力の拡張に加わったことを理解する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 世界分割と列強対立	3		
		3 アジア諸国の変革と民族運動	3		
11月	第15章 二つの世 界大戦	1 第一次世界大戦とロシア革命	4	・ヨーロッパの大国間の勢力均衡を軸とした社会からアメリカ・ソ連中心の国際社会への変容を理解する。 ・大衆の出現によって戦争の様相が変化したことや社会主義の広がりを生んだこと、全体主義の台頭などに注目させ、国家や社会の結びつきを考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	2		
		3 アジア・アフリカ民族主義の進展	3		
		4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	3		
		5 第二次世界大戦	3		
12月	第16章 冷戦とア ジア・ア フリカ世 界の自立	1 東西対立の始まりとアジア諸地域の自立	3	・戦後の国際政治・経済を学び、自由主義圏・社会主義圏・第三世界の各陣営の結束強化と相互の対立を軸に展開したことを理解する。 ・第三世界の台頭や日本・ヨーロッパ諸国の経済成長が米ソの平和共存を模索するきっかけになったことに気づき、国際政治が多極化に向かったことを理解する。 ・学習の状況について自己評価する。	プリント確認 行動観察 質問紙 自己評価
		2 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興	2		
		3 第三世界の自立と危機	2		
		4 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 後期中間考査 テスト返却 自己評価	1		
1月・2月	第17章 現代の世 界	1 冷戦の解消と世界の多様化	2	・冷戦体制の崩壊・石油危機などによる国際社会・経済の大きな変化が起こったことに気づき、その後の世界各国と日本の様子を理解する。 ・環境問題・人口問題・高齢化問題など地球規模の問題を学び、地球市民の視点から物事を考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		2 ソ連・東欧社会主義圏の解体とアジア圏社会主義国の転換	3		
		3 第三世界の多元化と地域紛争	2		
		4 現代文化	1		
1月・2月	主題学習	1 国際対立と国際協調	3	・現代の世界を取り巻く問題を主体的にとらえ、現代世界の歴史的特質について考察し、未来を展望する。 ・国際社会に主体的に生きる日本人の一人として現代の課題を解決する方法を模索する。	課題発表 自己評価
		2 科学技術の発展と現代文明	3		
		3 これからの世界と日本	2		
1月・2月		世界史Bの授業を終えて 授業評価	1	・1年間の学習により何が学べたかについて自己評価する。 ・1年間の授業について評価をする。	年間の反省 授業評価
		後期期末考査	1		
合計時間数			105		

## 世界史 B

### 評価規準を含んだ指導と評価の計画例（単元ごとの指導と評価の計画）

#### 1 科目の目標 「学習指導要領」の科目の目標と同一

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

#### 「学習指導要領」の科目の目標

#### 2 科目全体の評価の観点の趣旨

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」に記載されたもの

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史の大きな枠組みと流れをとらえることにより、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、世界の歴史をわが国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

#### 3 単元 「世界史への扉 (1)時間と空間 (2)日常生活に見る世界史」の目標と評価規準

##### (ア) 大単元「世界史への扉」の目標

身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界学習への意欲を高める。

##### (イ) 大単元「世界への扉」評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・主題に対する関心を高め、主体的に追究し、考えようとしている。 ・主題について追究することを通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲をもとうとしている。	・主題について考察し、判断している。	・主題の追究に必要な文献、画像、映像などの情報を収集し、選択し、活用している。 ・資料を用いて追及した過程や結果について、報告書にまとめたり、発表や討論をしたりする。	・適切な主題に関連した歴史について理解し、その知識を身に付けている。

#### 4 小単元「(1)時間と空間」の指導と評価の計画（各時間ごとの指導と評価の計画）

##### (ア) 小単元「世界への扉 (1)時間と空間」の単元目標

世界地図の変遷や意義を追究させ、人々の時間意識や空間意識が時代や立場によってことなることを気付かせ、地図作製には、作成者や時代の背景が反映していることを理解させる。

##### (イ) 小単元「世界への扉 (1)時間と空間」の評価規準（独自に設定）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・世界地図に対する関心を高め、主体的に追究し、考えようとしている。 ・世界地図について追究することを通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲をもとうとしている。	・世界地図について考察し、判断している。	・世界地図について思考したり追及した過程や結果について、発表や討論をしたりする。	・世界地図に関連した歴史について理解し、その知識を身に付けている。

## 世界史 B

(ウ) 小単元「世界への扉 (1)時間と空間」の各時間毎の計画

(特に記録を残す評価)

1 古代地図の変遷と発達について考える			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1 時 間 目	古代の地図	「Ga - Sur の石版地図」と「バビロニアの石版地図」を見て、世界観の広がりや、関心をもつ。 【関】	2枚の地図の違いを気づかせ、発表させる。
	プトレマイオスの地図・中世の地図	「プトレマイオスの地図」と中世の地図を比較して、作成者の考え方や時代の特色について考察し、発表する。 【技】	地図の広がりや緯度や経度が記されている点を気づかせ、発表させる。 中世の世界観を理解させ、記入発表させる。
	近代の地図		現代の地図との相違点を捉えさせ、発表させる。
	「メルカトルの地図」 ピリ・レイスの地図	「メルカトルの地図」をみて世界の広がりや、その当時の情勢に気づかせ、このあと成立する地図を予測させる。 【思】 ピリ・レイスの地図からその裏にある歴史のおもしろさや未知な部分への関心を高める。【関】	プリント提出 本時のまとめ

## 5 小単元「(2)日常生活に見る世界史」の指導と評価の計画 (各時間ごとの指導と評価の計画)

(ア) 小単元「世界への扉 (2)日常生活に見る世界史」の単元目標

食生活の変化と食材の伝播について追究させ、日常生活からも世界史がとらえられることに気付かせる。

(イ) 小単元「世界への扉 (2)日常生活に見る世界史」の評価規準

(独自に設定)

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
・食生活の変化と食材の伝播について関心を高め、主体的に追究し、考えようとしている。 ・食生活の変化と食材の伝播について追究することを通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲をもとうとしている。	・食生活の変化と食材の伝播について考察し、判断している。	・食生活の変化と食材の伝播について思考したり追及した過程や結果について、発表や討論をしたりする。	・食生活の変化と食材の伝播についてた歴史について理解し、その知識を身に付けている。

(ウ) 小単元「世界への扉 (2)日常生活に見る世界史」の各時間毎の計画

(特に記録を残す評価)

2 調べ学習の内容決定と予想立て			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
2 時 間 目	調べ学習のグループ分け 調べ学習の内容決定 内容についての予想	「食から見る世界史」という観点でグループ分けをする。 各グループで調べてみたい食事のメニューを決める。 【関】 食事のメニューの各食材が、どこで、いつ、どのように成立し発展させたのか、また日本にどのように伝わったのかを予想させる。【思】	机間指導をし、生徒の活動を見る。 プリントに予想を書かせ、調査項目についてもあらかじめ計画を立てさせる。 プリント提出

## 3 インターネットを利用したの調査

	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
3 時 間 目	内容についての調査	インターネットを利用し、食生活変化や食材の伝播、日本への普及などグループごとに調べる。 【技】	机間指導 報告書にホームページアドレスを付記することで、どのアドレスで調べたかなど、その合理性などを評価する。

## 世界史 B

4 WORDなど文書作成ソフトを使用しての調査のまとめ			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
4 時間 目	WORDを利用しての 報告書づくり	文書作成ソフトであるWORDを使用してグループごとに分担を決めて報告書を作る。 ・文字飾り、大きさ、センタリングなどの機能 ・コピー、貼り付けなど文書作成の機能 など基本的な報告書作成に関わる統一的な事項も押さえながら簡単な文書作成を行う。 【関】【知】【思】	机間指導 報告書の提出

5 発表			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
5 時間 目	報告書を利用して報告 会を行う。	各グループごとに報告書を利用して発表を行う。 報告に関しては今回は前時作成のものを利用する。 【技】【思】	机間指導 発表の評価表 (発表者、報告者とも) 自己評価表の提出 単元のまとめ

### 学習指導案例

教科(科目)	地理歴史科 世界史 B	単元名	世界史への扉
本時主題	古代地図の変遷と発達について考える		(1時間目 / 5時)
本時の 目 標	<p>古代から近代にいたる複数の世界地図の相違や変遷から、作成者やその時代の考え方等を知ることができ ることを理解し、時代によって世界観に違いがあることに関心を示す。 【関心・意欲・態度】</p> <p>プトレマイオスの地図と中世の地図を比較し、その違いを表現し、必ずしも時代が下がれば正確になると いうわけではないことを理解する。 【技能・表現】</p> <p>「メルカトル図法」による2枚の世界地図について、それがどこの国を中心として描かれているかを思考 し、背景にある海洋国家の覇権争いの事実を推察する。 【思考・判断】</p> <p>「ピリ＝レイス」の地図(製作されたとされる年代には発見されていなかった南極大陸が描かれている) の謎解きから、世界史の学習への興味や関心を高める。 【関心・意欲・態度】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価
・ 古代の地図を2種 類提示し、その違 いを捉えさせる。	<p>Question 1 「Ga - Sur」と「バビロニアの世界地図」の2 つの古代地図をみて、その特徴と相違点をあげる。</p> <p>・ 「Ga - Sur」の地図は自分の生活範囲のみを表して いるのに対して、「バビロニアの世界地図」は都市の周 り全体の範囲を表していることに注意する。</p> <p>・ 作製された地図から、作成者やその時代の考え方が推察 できることを理解する。</p>		粘土板の説明を見せて、興味関 心を引きつつ説明し、発表させ る。 【関】 評価方法 発問、挙手、発表
・ プトレマイオスの 地図から古代にも 科学的に地図が描 かれたことを理解 させる。	<p>Question 2 古代ギリシア「プトレマイオスの世界地図」と、中 世の地図を比較して、作成者の考え方や時代の特色 について表現する。</p> <p>・ 「プ地図」は地球が球体であることや緯度や経度が記さ</p>		プリントに二つの地図の特色を 記入させる。 【技】 評価方法 発問、挙手、発表  中世の世界とはどういうものか

世界史 B

<p>20 分</p>	<p>れてあり科学的な観察で描かれたことに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一方、「キリスト教の地図」「インドの地図」「TOMAP」 「チューリンマップ」等の中世の地図が宗教や神話または憶測をもとに作られたことを理解させる。</li> <li>・必ずしも時代が後の方が正確な地図とは限らないことに気付かせる。</li> <li>・古代ギリシアと中世の世界の相違をイメージさせる。</li> </ul>	<p>も考えさせる。意見発表によりイメージさせる。</p> <p>評価方法 【技】 発問、挙手、発表</p>
<p>45 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新大陸の発見に伴う地図上の広がりを理解させる。</li> <li>・時代の変化によって地図も大きく変化することを理解させる。</li> </ul>	<p>「近代の地図」を見せ、アメリカ大陸が記入されていることに注目する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大航海時代以降の世界の急速な結びつきを理解させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Question 3 「メルカトル図法」の2枚の世界地図を見て、どこの国を中心に描いた地図か、メルカトル図法がどのような目的の地図かについて考察させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メルカトル図法」の特徴を理解するとともに、その特徴である方角の正確性が大航海時代を大きく発展させたことについて理解する。</li> <li>・1枚目は、大航海時代を先行したポルトガルやスペイン覇権時代の地図。2枚目は、進出が遅れた国イギリスによる北極中心の地図。インド航路、大西洋航路に続く、第3のアジア到達航路（北極回り）が模索された事実と結びつける。</li> </ul>	<p>地図に描かれている大陸などを指しながら興味関心を引きつつ、説明。</p> <p>2種類の地図がどの方面から見たものかなど具体的な説明を与えて正解を誘導する。時代背景を理解できるとさらによい。 【思】</p> <p>評価方法 プリント記入（提出） 発問、挙手、発表</p>
<p>50 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学ぶ楽しさについて考える。</li> </ul>	<p>「ピリ＝レイスの地図」から我々が解明されていない歴史の深みや面白さを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の食生活に関するテーマ学習の予告。</li> </ul>	<p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表</p>